

2020年8月12日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <https://www.meiji.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日

上場取引所 東

(氏名) 川村 和夫
 (氏名) 山縣 洋一郎

TEL 03-3273-3917

配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	281,167	5.9	23,161	12.2	23,504	5.1	13,370	7.8
2020年3月期第1四半期	298,935	0.9	20,636	4.4	22,374	10.2	14,500	15.2

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 13,777百万円 (10.8%) 2020年3月期第1四半期 12,430百万円 (32.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	92.17	
2020年3月期第1四半期	99.98	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	1,037,792	598,900	54.4	3,893.13
2020年3月期	998,920	597,573	56.3	3,879.18

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 564,768百万円 2020年3月期 562,753百万円

(注) 2021年3月期第1四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		70.00		80.00	150.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		75.00		75.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)									
通期	1,253,000	0.0	110,000	7.1	111,000	7.4	69,500	3.2	479.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]14ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	152,683,400 株	2020年3月期	152,683,400 株
2021年3月期1Q	7,615,349 株	2020年3月期	7,613,416 株
2021年3月期1Q	145,068,205 株	2020年3月期1Q	145,032,588 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

(アナリスト・機関投資家向け電話会議資料の入手方法について)

当社は、2020年8月12日(水)にアナリスト・機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。この電話会議におけるプレゼンテーション資料および音声情報は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	11
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	14
(セグメント情報等)	14
(重要な後発事象)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「2020中期経営計画」の最終年度を迎え、基本コンセプト「継続的戦略課題への取り組み」と「成長に向けた新たな挑戦」に基づき、「コア事業での高シェア・高収益の実現」「海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大」「健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け」「構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服」「経営基盤の進化とサステナビリティの推進」に向けた取り組みを進めております。

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響を受けて、食品セグメントでは個人消費動向が不安視され、医薬品セグメントでは医療機関受診患者数が大幅に減少していることに加えて薬価改定の影響を受けるなど、厳しい環境下にあります。しかしながら、両セグメントともに生活に必要な食品・医薬品の安定供給に万全を期すとともに、費用の効率的な支出に取り組んでいます。また「2020中期経営計画」に沿って、コア領域・成長領域に経営資源を重点的に投下し、生産性の向上の取り組みも着実に推進しています。

当第1四半期連結累計期間の売上高は 2,811億67百万円（前年同期比 5.9%減）、営業利益は 231億61百万円（同 12.2%増）、経常利益は 235億4百万円（同 5.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 133億70百万円（同 7.8%減）となりました。

（単位：億円）

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減額	主な増減要因
売上高	2,989	2,811	△177	詳細はセグメント別の概況に記載
営業利益	206	231	25	詳細はセグメント別の概況に記載
営業外収益	24	15	△8	—
営業外費用	6	12	5	持分法による投資損失+3
経常利益	223	235	11	—
特別利益	5	9	3	関係会社株式売却益+9、 固定資産売却益△5
特別損失	10	22	11	貸倒引当金繰入額+10
税金等調整前 四半期純利益	218	222	3	—
法人税等	75	84	9	—
非支配株主に帰属する 四半期純利益	△1	3	5	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	145	133	△11	—

新型コロナウイルス感染症拡大による主な影響は次のとおりです。

食品セグメントでは、体調管理意識の高まりや巣ごもり消費の拡大を背景に、発酵 Dairy 事業のヨーグルトやプロバイオティクス、加工食品事業の市販チーズや冷凍食品などに需要増が発生しました。一方、国内における外出自粛要請などの影響により、加工食品事業における外食産業向けの業務用食品などで売り上げが減少しました。海外では、中国子会社の牛乳・ヨーグルト事業で業務用牛乳の売り上げが減少した一方、アイスクリーム事業は増収となりました。

医薬品セグメントでは、国内事業は医療機関受診患者数の減少により、主力品が減収となりました。海外事業では、インド全土におけるロックダウンの製造への影響は限定的でしたが、出荷の遅れが発生したことで売り上げが減少しました。

また、当社グループでは、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの開発・供給の取り組みを次のとおり進めています。

2020年5月22日に、当社の事業子会社であるKMバイオロジクス株式会社は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が実施する創薬支援推進事業の公募開発課題「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するワクチン開発（企業主導型）」に採択されました。現在、研究開発分担者である国立感染症研究所、東京大学医科学研究所および医薬基盤・健康・栄養研究所と協業し、新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンの開発を進めています。

また6月26日には、当社事業子会社であるMeiji Seika ファルマ株式会社とKMバイオロジクス株式会社は、アストラゼネカ株式会社が日本へ導入予定の新型コロナウイルスワクチンについて、国内安定供給に向けた協議を進めることに合意しました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

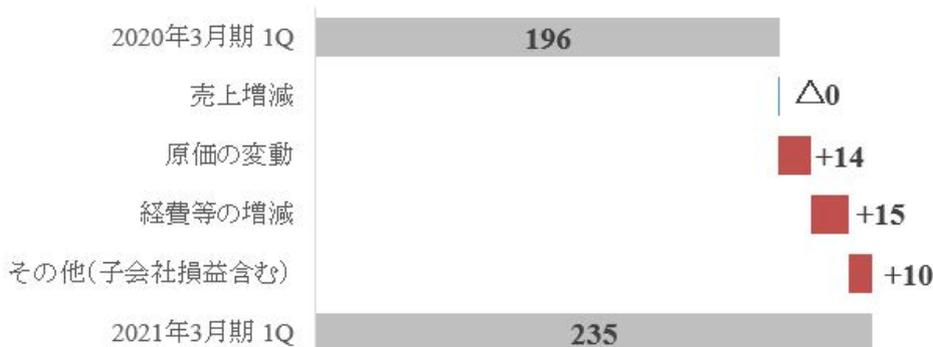
①食品セグメント

- ・売上高は前年同期を下回りました。発酵デイリー事業や海外事業は前年同期を上回り、栄養事業は前年同期並みとなりました。加工食品事業は前年同期を下回り、菓子事業は前年同期を大幅に下回りました。また、その他国内子会社は、株式譲渡により3社が連結対象子会社から除外されたことなどにより、前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、ヨーグルトやプロバイオティクスなどの増収に加え、販促費などのコストコントロールに努めた結果、前年同期を大幅に上回りました。

(単位：億円)

		2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減率
食 品	売上高	2,590	2,444	△5.7%
	営業利益	196	235	19.6%

営業利益増減分析 (単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減率		2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減率
発酵 デイリー	811	832	2.5%	発酵 デイリー	104	162	55.4%
加工食品	441	425	△3.5%	加工食品	18	19	3.4%
菓子	267	237	△11.2%	菓子	40	23	△43.2%
栄養	225	226	0.4%	栄養	41	39	△4.6%
海外	110	112	1.4%	海外	2	2	46.8%
その他 国内子会社	734	610	△17.0%	その他 国内子会社	8	7	△12.7%
				全社共通費	△20	△20	—

【発酵デイリー事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・売上高は前年同期を上回りました。ヨーグルトは増収となり、プロバイオティクスや「明治おいしい牛乳」は大幅な増収となりました。加えて「ザバスミルクプロテイン」も好調に推移しました。
- ・営業利益は、プロバイオティクスやヨーグルトの増収に加え、販促費などの削減により前年同期を大幅に上回りました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・売上高は前年同期を下回りました。市販アイスクリームや市販チーズは好調に推移しましたが、業務用食品は大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、減収の影響を経費削減効果によりカバーし、増益となりました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・売上高は前年同期を大幅に下回りました。菓ごもり消費の拡大などの影響を受けて「きのこの山・たけのこの里」は好調に推移しましたが、コンビニエンスストア向け商品が減収となり、チョコレート全体では減収となりました。また、グミやガムは大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、販促費などの経費削減に努めましたが、減収の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、乳幼児ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・売上高は、スポーツプロテイン「ザバス」や乳幼児ミルク、流動食「明治メイバランス」は好調に推移しましたが、スポーツアミノ酸「ヴァーム」などが減収となったことから、全体では前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、経費削減に努めましたが、2019年11月に稼働した粉末プロテイン工場の減価償却費の増加などにより、前年同期を下回りました。

【海外事業】 (海外子会社、輸出)

- ・売上高は前年同期を上回りました。中国子会社の菓子事業や牛乳・ヨーグルト事業は減収となりましたが、中国子会社のアイスクリーム事業と米国子会社は増収となりました。
- ・営業利益は、中国子会社のアイスクリーム事業と米国子会社の増収により、前年同期を大幅に上回りました。

【その他国内子会社】 (飼料、砂糖および糖化穀粉、運送等)

- ・売上高は、畜産品などの子会社3社が株式譲渡により連結対象子会社から除外されたことに加え、物流子会社や砂糖商社などの減収により、前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、物流子会社などの減益により前年同期を大幅に下回りました。

②医薬品セグメント

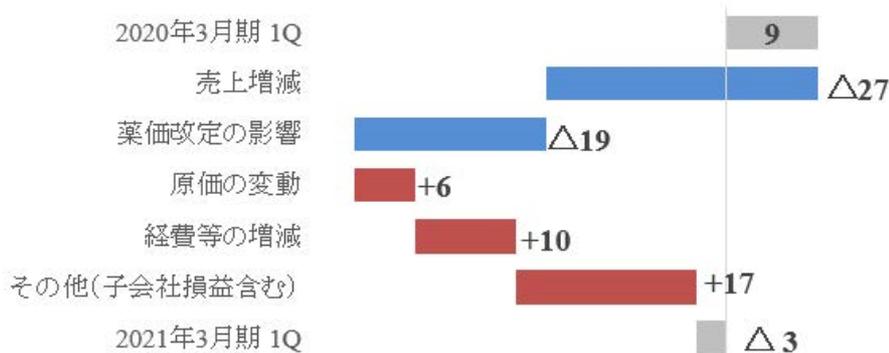
- ・売上高は前年同期を下回りました。国内事業は、薬価改定に加えて新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前年同期を下回りました。海外事業も同感染症拡大の影響により、前年同期を大幅に下回りました。KMバイオロジクスは主力品の増収により、前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は、国内事業の営業損失により前年同期を大幅に下回りました。

(単位：億円)

		2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減率
医薬品	売上高	400	371	△7.3%
	営業利益	9	△3	—

営業利益増減分析

(単位：億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減率		2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	対前年同期 増減率
国内	264	239	△9.5%	国内	13	△26	—
海外	114	97	△14.8%	海外	9	14	50.9%
KMバイオロジクス	40	55	37.1%	KMバイオロジクス	△15	△1	—
消去	△18	△21	—	修正・消去	1	10	—

【国内事業】

- ・売上高は前年同期を下回りました。ヒト用ワクチンの販売は好調に推移しましたが、抗うつ薬「リフレックス」や抗菌薬「メリアクト」、ジェネリック医薬品などが大幅な減収となりました。
- ・営業利益は前年同期を大幅に下回りました。経費削減に努めましたが、主力品の減収と薬価改定の影響を大きく受けました。

【海外事業】

- ・売上高は前年同期を大幅に下回りました。タイやインドネシア、スペインの子会社は増収となりましたが、中国やインドの子会社は減収となりました。
- ・営業利益は、タイやインドネシア、スペインの子会社の増収などにより、前年同期を大幅に上回りました。

【KMバイオロジクス】

- ・売上高は、B型肝炎ワクチン「ビームゲン」や血漿分画製剤が好調に推移し、前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は前年同期を上回りました。増収の影響に加え、棚卸評価減の金額が減少したことなどが寄与しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期 第1四半期	2021年3月期	
			対前期末 増減額	主な増減要因
流動資産	4,168	4,516	348	現金及び預金+386、商品及び製品+53、 原材料及び貯蔵品+31、 受取手形及び売掛金△149
固定資産	5,820	5,861	40	投資有価証券+42
資産合計	9,989	10,377	388	—
流動負債	2,565	2,927	362	コマーシャル・ペーパー+500、 支払手形及び買掛金△83、未払費用△59
固定負債	1,448	1,460	12	長期借入金+10
負債合計	4,013	4,388	375	—
株主資本	5,536	5,555	18	利益剰余金+16
その他の包括利益 累計額	90	92	1	その他有価証券評価差額金+29、 為替換算調整勘定△33
非支配株主持分	348	341	△6	—
純資産合計	5,975	5,989	13	—
負債純資産合計	9,989	10,377	388	—
有利子負債	1,067	1,650	583	コマーシャル・ペーパー+500
自己資本比率	56.3%	54.4%	△1.9pt	—

②キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2021年3月期	
			対前年同期 増減額	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	34	119	85	法人税等の支払額+83、売上債権の減少+58、 たな卸資産の増加△46、仕入債務の減少△17
投資活動による キャッシュ・フロー	△162	△184	△22	有形固定資産の取得による支出△19、投資有価証券の取得による支出△19、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入+21
財務活動による キャッシュ・フロー	140	462	321	コマーシャル・ペーパーの増加+320
現金及び現金同等物 の期末残高	258	760	501	—
フリー・ キャッシュ・フロー	△127	△64	63	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年5月22日の「2020年3月期決算短信」で公表いたしました2021年3月期の連結業績予想に変更はありません。

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、世界で約17,000人の従業員やその家族の安全と健康を確保するため、テレワークの推奨、出張自粛などさまざまな対策を講じております。現時点では生産体制および原材料調達において大きな影響は生じておりませんが、今後も状況変化に応じて必要な対策を速やかに実施することにより安定的な製品供給に努めるとともに、「食と健康」に関わる企業グループとしての責務を果たしてまいります。

引き続き事業活動に与える影響を慎重に見極め、今後、連結業績予想に修正の必要が生じた場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,446	76,058
受取手形及び売掛金	179,931	165,013
商品及び製品	111,028	116,362
仕掛品	3,729	4,299
原材料及び貯蔵品	58,542	61,720
その他	27,454	30,637
貸倒引当金	△1,247	△2,405
流動資産合計	416,885	451,687
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	353,843	353,375
減価償却累計額	△172,887	△173,422
建物及び構築物 (純額)	180,956	179,953
機械装置及び運搬具	539,437	539,792
減価償却累計額	△384,661	△384,215
機械装置及び運搬具 (純額)	154,775	155,577
工具、器具及び備品	58,049	58,170
減価償却累計額	△43,478	△43,792
工具、器具及び備品 (純額)	14,570	14,378
土地	69,363	68,286
リース資産	3,046	3,083
減価償却累計額	△2,166	△2,230
リース資産 (純額)	880	852
建設仮勘定	23,645	24,881
有形固定資産合計	444,191	443,930
無形固定資産		
のれん	57	53
その他	14,240	13,937
無形固定資産合計	14,297	13,990
投資その他の資産		
投資有価証券	84,598	88,888
退職給付に係る資産	15,500	15,802
繰延税金資産	16,341	16,004
その他	7,171	7,556
貸倒引当金	△66	△68
投資その他の資産合計	123,545	128,183
固定資産合計	582,034	586,104
資産合計	998,920	1,037,792

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,317	103,958
短期借入金	30,874	38,159
コマーシャル・ペーパー	-	50,000
未払費用	45,457	39,521
未払法人税等	12,164	8,605
賞与引当金	12,090	6,587
返品調整引当金	256	74
売上割戻引当金	1,908	1,427
その他	41,451	44,460
流動負債合計	256,520	292,794
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	55,890	56,930
繰延税金負債	8,399	9,300
退職給付に係る負債	55,410	55,034
役員退職慰労引当金	121	88
その他	5,004	4,741
固定負債合計	144,826	146,097
負債合計	401,347	438,891
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	100,245	100,434
利益剰余金	453,729	455,363
自己株式	△30,288	△30,291
株主資本合計	553,687	555,505
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,968	29,955
繰延ヘッジ損益	53	△247
為替換算調整勘定	△3,279	△6,591
退職給付に係る調整累計額	△14,677	△13,853
その他の包括利益累計額合計	9,066	9,263
非支配株主持分	34,819	34,131
純資産合計	597,573	598,900
負債純資産合計	998,920	1,037,792

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	298,935	281,167
売上原価	189,937	177,668
売上総利益	108,998	103,499
販売費及び一般管理費	88,361	80,337
営業利益	20,636	23,161
営業外収益		
受取利息	51	51
受取配当金	674	650
為替差益	-	508
その他	1,696	377
営業外収益合計	2,421	1,587
営業外費用		
支払利息	202	150
持分法による投資損失	98	492
為替差損	104	-
その他	278	601
営業外費用合計	683	1,245
経常利益	22,374	23,504
特別利益		
固定資産売却益	532	2
関係会社株式売却益	-	928
その他	0	-
特別利益合計	532	931
特別損失		
固定資産廃棄損	923	784
貸倒引当金繰入額	-	1,078
その他	93	350
特別損失合計	1,016	2,214
税金等調整前四半期純利益	21,890	22,221
法人税等	7,569	8,490
四半期純利益	14,321	13,730
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△179	359
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,500	13,370

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	14,321	13,730
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,530	2,998
繰延ヘッジ損益	△19	△301
為替換算調整勘定	83	△2,762
退職給付に係る調整額	564	807
持分法適用会社に対する持分相当額	10	△695
その他の包括利益合計	△1,890	46
四半期包括利益	12,430	13,777
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,602	13,567
非支配株主に係る四半期包括利益	△171	209

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	21,890	22,221
減価償却費	11,119	11,584
のれん償却額	3	3
有形固定資産除却損	922	784
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	13	1,159
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△5,131	△5,377
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	614	1,195
受取利息及び受取配当金	△725	△701
支払利息	202	150
持分法による投資損益 (△は益)	98	492
有形固定資産売却損益 (△は益)	△525	5
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	△928
売上債権の増減額 (△は増加)	7,738	13,591
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,761	△10,458
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,191	△6,954
その他	△401	△1,315
小計	24,865	25,453
利息及び配当金の受取額	1,156	709
利息の支払額	△196	△128
法人税等の支払額	△22,384	△14,073
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,441	11,961
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△16,433	△18,388
無形固定資産の取得による支出	△841	△729
有形及び無形固定資産の売却による収入	723	1,331
投資有価証券の取得による支出	△22	△1,986
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	2,154
その他	341	△816
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,231	△18,434
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	8,192	10,018
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	18,000	50,000
長期借入れによる収入	-	2,267
長期借入金の返済による支出	△1,172	△3,826
自己株式の増減額 (△は増加)	△9	△7
配当金の支払額	△10,689	△11,370
非支配株主への配当金の支払額	△98	△607
その他	△171	△271
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,051	46,203
現金及び現金同等物に係る換算差額	125	△821
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,386	38,909
現金及び現金同等物の期首残高	24,481	37,110
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,867	76,020

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自2019年4月1日 至2019年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	258,972	39,963	298,935	-	298,935
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	121	73	195	△195	-
計	259,094	40,036	299,131	△195	298,935
セグメント利益	19,682	977	20,659	△23	20,636

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△23百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△30百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	244,254	36,912	281,167	-	281,167
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	162	203	365	△365	-
計	244,417	37,115	281,533	△365	281,167
セグメント利益又は損失(△)	23,545	△349	23,196	△34	23,161

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額△34百万円には、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△38百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係る費用等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれんの発生はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による持分法適用関連会社化)

当社の連結子会社である株式会社明治(以下「明治」)は、中国にて牧場を運営するAustAsia Investment Holdings Pte LTD.(以下、「オーストアジア社」)の株式25.0%を取得することについて、オーストアジア社の株主であるJapfa LTD.と2020年4月15日に合意し、2020年7月3日に取得致しました。

なお、株式取得に伴い持分法適用関連会社となる見込みです。

1. 株式取得の目的

オーストアジア社は、優れた生乳生産性を誇り、中国で最も高品質な生乳を生産する大手生乳会社の一社であり、現在、明治の中国牛乳・ヨーグルト事業における主要な生乳調達先です。

明治が、今後も中国の牛乳・ヨーグルト市場において成長を続けていくためには、良質な生乳を安定的に調達していくことが必要です。今回の株式取得は、生乳の調達から生産に至るバリューチェーンを強化し、中国における持続的な成長基盤の確立を実現していくことを目的としています。

2. 株式取得の相手会社の名称

Japfa LTD.

3. 買収する会社の名称、事業内容

(1) 社名：AustAsia Investment Holdings Pte LTD.

(2) 主な事業内容：中国における生乳生産事業など

(3) その他：オーストアジア社は、2020年4月に行われた事業再編により、中国において生乳生産事業を中心に従事する会社となりました。

4. 株式取得の時期

2020年7月3日

5. 取得した株式の数、取得価額および取得後の持分比率

(1) 取得した株式の数：84,027,991株

(2) 取得価額：254.4百万米ドル(約278億円)

(3) 取得後の持分比率：25.0%

6. 支払資金の調達及び支払方法

当社グループ内の手元資金および外部からの調達に基づき、取得の対価を現金で支払いました。

(重要な子会社の設立)

当社は2020年7月13日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社明治が以下の通り子会社を設立することを決議し、2020年7月16日に設立致しました。

1. 設立の目的

中国における牛乳・ヨーグルト事業および菓子事業の拡大を目的として設立するものであります。

2. 設立する子会社の概要

- | | |
|------------|---------------------------|
| (1) 名称 | 明治食品(広州)有限公司 |
| (2) 住所 | 中華人民共和国広東省広州市増城区 |
| (3) 代表者の氏名 | 藤野 卓也 |
| (4) 資本金の額 | 1,200百万元(登録資本金) |
| (5) 事業の内容 | 牛乳類やヨーグルト、菓子等の生産・販売 |
| (6) 出資額 | 1,200百万元(うち間接出資分1,200百万元) |
| (7) 出資比率 | 100.0%(うち間接所有分100.0%) |
| (8) 設立の時期 | 2020年7月16日 |